

北海道の元気! NPO訪問

45 NPO 法人 ひとまちつなぎ石狩

文・加藤知美

市民活動支援と地産地消を事業の柱に活動 人のつながりを支え、地域の活力を高める

◇ 市民活動支援から出発、地域食堂の開業も実現

石狩市の中でも人口が集中している花川の住宅街、花川北地区にある花川北コミュニティセンター内にある石狩市市民活動情報センター「ぼぼらーと」を訪ねた。住宅街といっても、市民生協や銀行、郵便局が連なるにぎやかな一角にある。石狩市内の市民活動団体を支援する施設だが、図書館のような書棚にぎっしりと書籍が並んでいるのが目に飛び込んできた。石狩市民図書館北分館

の閉館後に設置されたことに関係していると言いき、納得した。二〇〇八年のオープン時から「NPO法人ひとまちつなぎ石狩」が指定管理者として運営にあたり、ミーティングコーナーや市民活動相談コーナーがあるほか、印刷機やコピー機が利用できる。また、市民活動のイベントや会員募集のちらしやパンフレットが掲示できるコーナーがあり、助成金情報の提供にも力を入れている。

「NPO法人ひとまちつなぎ石狩」は、市民活動団体やNPOの情報交換、交流を活性化し、連携を深めることを目的に二〇〇四年に設立された。代表をつとめる羽田美智代さんは、市議会議員だったことから、市役所内外に幅広いネットワークがあり、それを活かしたまちづくりをめざしてNPOを立ち上げた。当初は、市民活動やまちづくりに関する情報交換や交流を目的に講演会やワークショップを企画して開催するのが主な活動だった。

その後、石狩市から委託を受け、団塊世代向けの「石狩市退職者地域マッチング推進事業」を実施した。札幌のベッドタウンでもある石狩市中心部には定年退職者が多く居住し、その力をまちづくりにつなげようという事業だった。そうしたなかで、コミュニティ・レストラン講座には二二名が参加し、運営ノウハウを学んで事業計画を立て、実際に四日間の試験営業を行った。その一年後には、八名で企業組合を設立し、「地域のお茶

の間」として、誰もが気軽に集まれる食堂を作り、安心安全・地産地消を基本に家庭的な食事を提供することを目指し、地域食堂「ぎずな」がオープンした。ワンデイシェフ方式で日替わりのシェフたちが工夫を凝らしたメニューで営業している。NPOが運営をサポートし続け、一日平均来客数は一五人程度を維持し、六年目を迎えた現在は藤女子大学の学生も参加し、活気に満ちている。

◇ 地産地消事業を充実化、「地域の良さ」を発信

ひとまちつなぎ石狩の事業の柱は、市民活動支援と地産地消だ。コミュニティ・レストラン講座を開催していた二〇〇六年には納豆の販売も始めた。土づくりにこだわり、にお積みで自然乾燥させた風味豊かな石狩産の大粒大豆を地元の納豆製造業者が商品化した。羽田代表が市議会議員時代には、地産地消を推進して地域の特性に合った食を守る政策を進めたが、この大豆は、代表が農業委員の時代に知り合った農家がつくるものだった。しかし、市内にある納豆製造業者もそうした



指定管理者として運営に携わっている石狩市市民活動情報センター「ぼぼらーと」。

貴重な大豆の存在を知らず、NPOが仲をとりもった形だ。月に一回製造し、限定一〇〇パック程度が販売された(納豆職人の高齢などを理由に廃業したことから、二〇一二年一月に販売を終えている)。

地産地消事業では、NPO設立直後に開催して以来毎年一二月に開いている恒例の「こだわり師走市」が市民にもすっかり定着している。石狩市内でこだわりの品をつくる農家やNPOなどはあまり知られておらず、地域の良さを実感していない市民が多いと感じたことから、まずは知ってもらうための展示会を企画したところ、それぞれの品物に対して頒布を希望する問合せが寄せられるなどの反響があったため、販売も行うようになった。石狩市内で栽培されている稲穂を使ったりスや古代米(紫米)、廃材を使った精巧なおもちゃなど、ユニークなこだわりの一品が評判だった。丹精こめてつくられた花鉢は、例年、開始前から行列ができるほどの人気だ。地域の良いものを地域の人に紹介して新たなつながりを生み出している。

◇ 支援センターを指定管理、市民活動を下支え

こうした活動を続けるうちに、石狩市が市内の市民活動を支援する「市民活動情報センター」を設置することになり、その指定管理者に選定された。イタリア語で市民を意味するボポラーレと、情報の行き交う場所として石狩市の象徴でもある港(ポート)からできた造語の「ぼぼらー」と名付けられたセンターは、二〇〇八年八月にオープンし、現在、月平均約一〇〇〇人が利用してい

る。個人や団体からの活動相談・まちづくりの相談を受けるが、打合せスペースとしての利用、印刷機・折り機やコピー機使用の頻度は高い。特に印刷機は、町内会から市民活動団体、大学サークルなど幅広く石狩市民に限らず利用されている。また、インターネットの使えるパソコンを二台設置しているほか、市民活動での集会などに利用できるようプロジェクト、スクリーン、アンプ、マイク等の備品貸し出しも行っている。市民活動団体を支援するための情報発信にも力を入れており、会員募集や催しなどの掲示板があるほか、助成金情報などを掲載する『ぼぼらーと通信』を年六回発行したり、ホームページで情報提供を行うなどしている。また、定期的に「まちづくりラウンドテーブル」を開催しており、テーマを決めて地域の人たちとぎくばらんな話し合いを行う場にもなっている。

「ぼぼらー」は、石狩市民図書館の分館だった場所であることから、ひとまちつなぎ石狩では、指定管理者として石狩市に図書コーナーの設置を提案し、石狩市民図書館から約七〇〇冊の本を借り受けた。貸出、返却、取り寄せ等の図書サービスとして行い、四人



こだわり師走市では、地場の農産品やクリスマス・お正月の手作りの飾りなどが紹介される。

の図書館ボランティアが担当している。また、毎年三月には、市民から集めた古本を格安で販売する「ブックマーチ」を行い、その収益で書籍を購入し、学校図書館などに寄付している。

これらの精力的な活動を引っ張る羽田代表のネットワーク力により、人と人、人とのつながりぐまちは、確実に地域の活力を生み出している。指定管理者は二〇一三年度で一区切りとなるが、今後は市民活動を支援する次世代の人材育成を視野に入れた提案を考えている。雇用を確たるものとし、若い世代が頑張れる仕事環境づくりが課題だ。「つなぎ役」を自任する羽田さんは、「人と会ってしゃべるだけで一日が終わることもある」と笑うが、こうした人のつながりを築くには時間もかかる。自らが礎となってまちづくりを支える体制が続いていくことを模索している。



3月に開催するブックマーチのお知らせをするスタッフ。右下が代表の羽田美智代さん。

◆ NPO法人ひとまちつなぎ石狩
所在地 石狩市花畔2条1丁目9-1
TEL 01331601272
WEB <http://blog.campan.info/hitomachi:3213/>